

自分の考えを明確に表現する力を高める指導の工夫

—— 文章構造の特徴を生かし、自分の考えをまとめていく

『マイシート』の活用を通して ——

長期研修員 林 めぐみ

《研究の概要》

本研究は、小学校国語科の「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項を関連付けて指導する単元において、説明的な文章から文章構造の特徴を読み取らせ、その文章構造の特徴を生かして自分の考えをまとめさせることにより、自分の考えを明確に表現する力を高めさせることを目指したものである。そのために、児童が説明的な文章から読み取った文章構造の特徴をまとめ、すぐにその文章構造の特徴を利用して自分の考えを表現することのできる『マイシート』を作成した。説明的な文章の文章構造の特徴と児童が考えを表現した文章が可視化される『マイシート』の有効性を、授業実践を通して明らかにした。

キーワード 【国語ー小 読むこと 書くこと 説明的な文章 文章構造の特徴】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-02 平成27年度 255集

I 主題設定の理由

近年行われた国際的な学力調査や国の教育に関する諸調査では、国語の記述式の問題において文章を深く読んで分析的に理解し、その上で論理的に記述する設問で課題が指摘されており、我が国の児童生徒の読解力の質の向上が求められている。本県児童生徒にも、複数の資料を比較して読み、情報を関係付けながら、まとめたり自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。また、所属校児童も、文章を読んで主題を捉えたり、自分の意見を書いたりする能力に課題を持っている。

これらの課題が継続しているのは、知識・理解の領域と活用の領域を関連付けた学習指導において、児童に身に付けた知識・技能を自分の考えの表現に目的を持って用いるという意識付けが弱かったからではないかと考える。1単元で1領域の内容を扱い、身に付けさせたい言語能力を明確にするために指導事項を一つに絞って指導することが多く行われてきた。しかし、今、児童生徒に求められていることは、身に付けた知識・技能を関連付けて駆使し、自分の表現に生かす力を身に付けていくことである。異なる領域の指導事項を関連付けて学ばせる指導が求められていると考える。

そこで、本研究では第5・6学年の国語科の指導において、「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項を関連付けた指導を行う単元を構成する。説明的な文章を教材として扱い、文章構造の特徴について読み取らせることと、読み取った文章構造の特徴をすぐに利用して自分の考えをまとめさせることで、児童が自分の考えを明確に表現する力を高められると考える。文章構造の特徴に係る「読むこと」の領域での理解と「書くこと」の領域での活用を関連付けて直結させるために、二つの領域の学習を取り入れたワークシート『マイシート』の作成を行う。これにより、説明的な文章から読み取った文章構造の特徴の可視化が図られ、児童がすぐに自分の考えを表現する時の参考として生かされる。また、表出された児童の考えも可視化され、文章構造の特徴を生かしながら表現された明確な文章になっているかすぐに自己評価させることができる。さらに、一つの単元で主教材と副教材を用意し、『マイシート』による文章構造の特徴についての理解と表現への活用を繰り返させることで、この学びの過程の一般化が図られるであろう。

以上のことから、「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項を関連付けて構想した単元において、文章構造の特徴を生かし、自分の考えをまとめていく『マイシート』を用いることで、児童が自分の考えを明確に表現する力を高めていくものと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校国語科の説明的な文章を対象にして「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項を関連付けて指導する単元において、自分の考えを明確に表現する力を高めるために、読み取った文章構造の特徴を生かし、自分の考えを表現していく『マイシート』を用いることの有効性を明らかにする。

III 研究仮説（研究の見通し）

1 文章構造の特徴を捉えて表現に試行させる「マイシート1」

主教材を読む学習活動において、「マイシート1」に文章構造の特徴の一つである文章構成の特徴についてまとめさせ、すぐに同じ文章構成を用いて文章を書く試行をさせることによって、児童は、説明的な文章の文章構成の特徴を理解し、文章構成を用いて自分の考えを表現する方法を身に付けることができるであろう。

2 身に付けさせたい文章構造の特徴とその効果を理解させる「マイシート2」

主教材及び副教材の内容を読む学習活動において、「マイシート2」を用いて身に付けさせたい文章構造に気付かせ、その特徴や効果について考えさせることによって、児童は自分の考えを明確に表現するために必要な文章構造の特徴を理解したり、利用する効果を知ったりできるであろう。

3 文章構造の特徴を利用して自分の考えを書かせる「マイシート3」

主教材及び副教材を読んで自分の考えを書く学習活動において、「マイシート3」に「マイシート1・2」で読み取った文章構造の特徴を記述させることによって、児童は文章構造の特徴を意識したり、目的を持って文章構造の特徴を利用したりして自分の考えを明確に書くことができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 自分の考えを明確に表現するとは

学習指導要領解説国語編の第5学年及び第6学年「読むこと」のウ 説明的な文章の解釈に関する指導事項の後半「事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら」読むことの説明として、「筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にして」読むこととある。また、「自分の考えを明確にする場合には、自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら、自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読むこと」とある。

同じく第5学年及び第6学年「書くこと」のイ 構成に関する指導事項「自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」の説明には、「自分の考えを明確に表現することを重視して文章全体の構成の効果を考える」とある。また、「『自分の考えを明確に表現する』ための構成とは、自分が考えていることを明確にすることだけではなく、相手が書き手の考えを明確に理解できるようにすることである」とある。文章構成として、「序論－本論－結論」が、また、統括の位置付けでは「頭括型」、「尾括型」、「双括型」が示されており、これらを効果的に用いて自分の考え及び相手の理解が明確になるように文章を構成していくことが述べられている。

これを基に、本研究における「自分の考えを明確に表現する」とは、「説明的な文章に書かれている筆者の主張についての自分の考えを、文章構成や事例の述べ方、文末表現などの文章構造の特徴を理解し、それらを用いながら記述する」と定義する。

(2) 「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項を関連付けた指導とは

学習指導要領解説国語編では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の三つの領域について、「各領域の目標はそれぞれ独自の目標として示しているが、同時に相互に密接な関連性がある。したがって、各領域の目標を関連付けるとともに、指導が調和的に行われるような配慮をする必要がある」と明記されている。そこで、「書くこと」と「読むこと」の領域の指導事項と言語活動例、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を参考に、文章構造を拾い上げ関連付けて並べた(表1：第5・6学年部分の抜粋)。共通、又は関連した文章構造が領域等を横断して取り上げられ、指導されていることが分かる。そこで、本研究では、これらの文章構造が教材内容を読み取るために用いられ、かつ、自分の考えを明確に表現するための知識・技能となることに焦

表1 「書くこと」と「読むこと」の指導事項で取り上げる文章構造(第5・6学年)

		「書くこと」	「読むこと」	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
第5・6学年	段落・構成	文章全体の構成 「序論－本論－結論」 「現状認識－問題提起－解決－結論－展望」 統括の位置(頭括型・尾括型・双括型)	文章全体の構成 構成の仕方 筆者の意図や思考	文及び文章の構成
	内容	事例 確かな理由や根拠 事実 感想 意見 要約 自分の考え	話題 事例 根拠 理由 論証 説得 事実 感想 意見 要旨 自分の立場 自分の考え 主張	
	文章表現	表現の効果 記述の仕方 優れた表現を模倣 書き出し 引用 図表やグラフ	表現の工夫 巧みな叙述	文の性質や機能 語句と語句との関係 文章を特徴付ける語句

点を当て、一つの単元で「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項を関連付けて指導を行うことにする。つまり、文章構造を軸として説明的な文章の内容理解と自分の考えの表現を直結させることで、各領域で身に付けさせたい力を効果的に指導しようとするものである。

そのために、まず、「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項と文章構造の関連について明確にしてから単元構想を行う。次に、単元の目標の設定、関連付ける指導事項、指導計画などを設定していく。指導計画においては、理解した文章構造の特徴をすぐに表現に活用させるために、1単位時間に「読むこと」と「書くこと」の両方を指導し、評価を行うこともある。教材文に取り上げられている文章構造の特徴をすぐに自分の考えの表現に活用することは、より良い表現の仕方を身に付けさせる方法として最短の過程となる。「書くこと」の活動では、「読むこと」で理解した文章構造の特徴を常に意識しながら表現させていく。

(3) 文章構造とその特徴とは

文章構造とは文章表現を組み立てているものである。説明的な文章で言えば、文章全体の枠組となる文章構成、その枠組の中にある文章の内容のまとまりとその相互関係、文や文章を作る語や語句など、多くの文章構造の様相を見ることができ、その様相を特徴と定義する。説明的な文章の書き手は、自分の主張に説得力を持たせ、読み手に分かりやすく伝えるために、文章構造を駆使して表現している。つまり、文章構造の特徴を理解させることは同時により良い表現の方法を理解させることでもあると言える。前頁表1に示すように、発達段階に合わせて「書くこと」と「読むこと」の領域で共通、又は関連する文章構造を基に指導が行われている。本研究は、「読むこと」の指導で理解させた文章構造の特徴を、「書くこと」の指導に直結させて活用させようとするものである。指導する際には、教材文中に見られる文章構造とその特徴を選択し、系統的・計画的に指導を行い、効果を捉えさせたり、自分の考えを述べる活動で意識して利用させたりする。

(4) マイシートとは

『マイシート』は、説明的な文章を読む上で身に付けさせたい文章構造の特徴を記入させたり、それらを利用して自分の考えを記述させたりするワークシートである。文章全体の構成の枠の中に文章構造の特徴が記述されて可視化が図られることで、児童は説明的な文章の書き手の思考を参考にしたり、自分の表現に利用したりしながら自分の考えを明確に表現していくことができる。

『マイシート』は、指導過程に合わせて「マイシート1」、「マイシート2」、「マイシート3」を作成し、総じて『マイシート』と表す。

① 文章構造の特徴を捉えて表現に試行させる「マイシート1」

「マイシート1」は、説明的な文章の文章構造の特徴の一つである文章構成を理解し、すぐに同じ文章構成を利用して文章を書く試行をさせるワークシートである(図1)。説明的な文章を読んだり、意見文を書いたりする第1段階として文章構成を利用させることで、文章から筆者の主張を見付けたり、文章全体のどこで主張を述べたらよいかという理解を図ったりできると考える。シートの右半分は、主たる教材の内容を小見出しを付けることで大まかに読み、文章構成について理解をさせる。左半分で身近な話題を用いて自分の考えを持たせ、主たる教材と同じ文章構成で文章を書かせる。自分の考えを表現する際に文章構成を利用することにねらいを置くため、書かせる文量は少なく設定し、自分の考えを表現するために文章構成を利用するという意識付けと文章構成の理解の定着を図る。

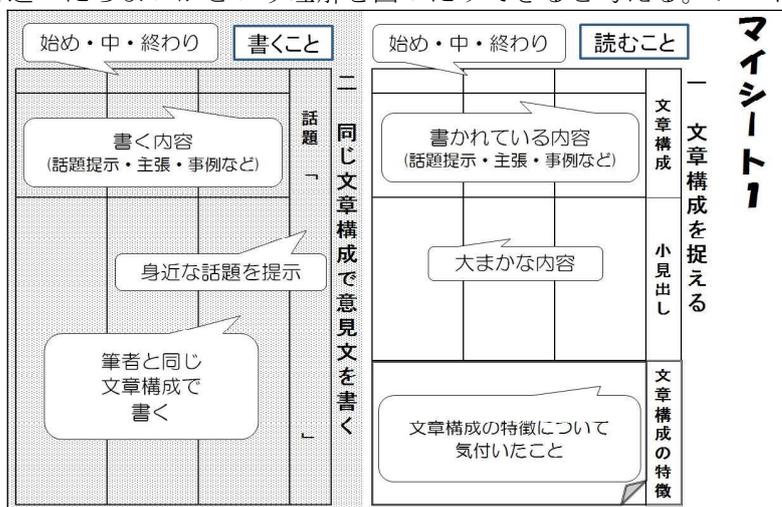


図1 マイシート1

② 身に付けさせたい文章構造の特徴とその効果を理解させる「マイシート2」

「マイシート2」は、説明的な文章の内容の読み取りから身に付けさせたい文章構造の特徴とその効果を理解させるワークシートである(図2)。右側には身に付けさせたい文章構造の特徴と関わらせて教材文の内容を可視化させる。筆者の主張を支えるために、文章構造の特徴が文章全体のどこでどのように利用されているか捉えさせる。左側には、文章構造の特徴とその効果を考えさせて記述させる枠を設ける。これは「マイシート3」

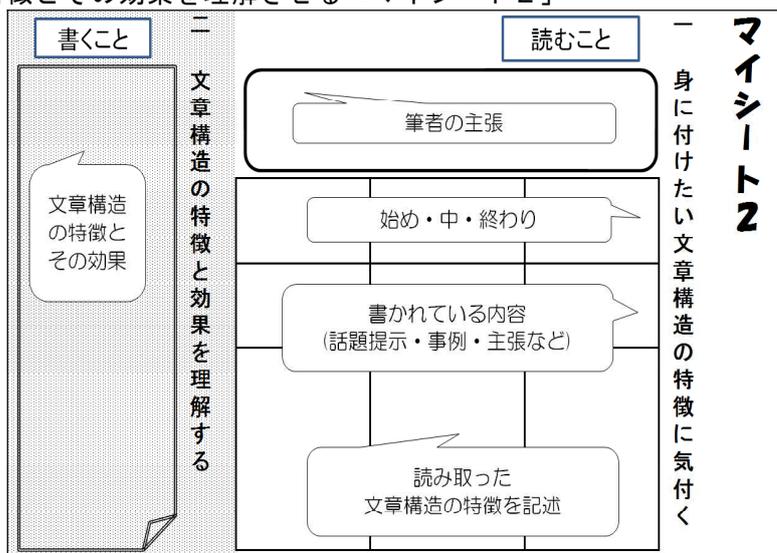


図2 マイシート2

で自分の考えを表現させる際に、児童が筆者と同じように明確な文章にするために文章構造を利用する目的となるものと考えられる。

③ 文章構造の特徴を利用して自分の考えを書かせる「マイシート3」

「マイシート3」は、学んだ文章構造の特徴を利用しながら自分の考えを書かせるワークシートである(図3)。筆者の主張について自分の考えを、「マイシート1」で理解した文章構成を使って、また、「マイシート2」で理解した文章構造の特徴を利用して表現させる。右側には使わせたい文章構造の特徴を記述させる枠を、左側には自分の考えを書かせる文章構成の枠を配置する。書き終わったら文章構造の特徴を適切に利用して書いているか、右側の枠に記述

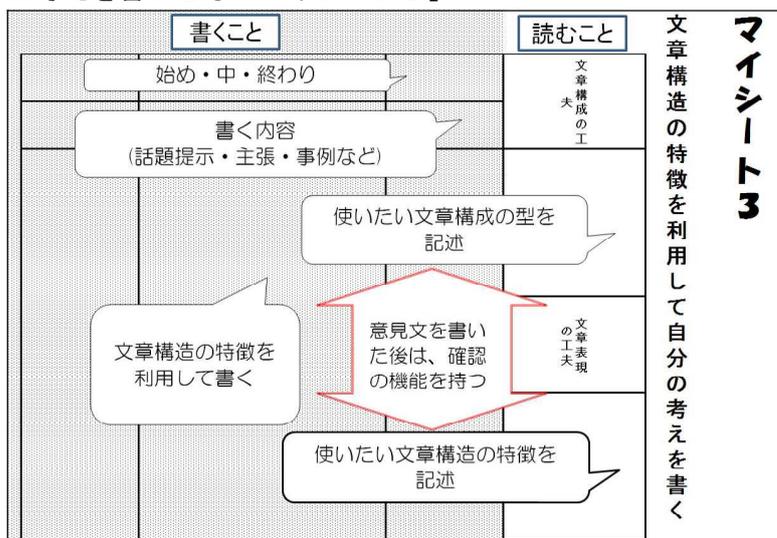


図3 マイシート3

した文章構造の特徴に印を付けながら確認をさせる。自己評価と相互評価により、文章を修正し、自分の考えを明確に表現できるようにさせる。

(5) 主教材と副教材について

本研究の指導では、主たる教材と副次的な教材を扱う。主たる教材は、内容の読み取りを通して文章構造の特徴を理解させたり、自分の考えを表現させたりする説明的な文章であり、本研究では主教材と呼ぶ。主教材は、身に付けさせたい文章構造の特徴が捉えやすい文章が望ましく、教科書教材を利用することが多い。副次的な教材は、主教材で理解させた文章構造の特徴を適用させるための教材であり、本研究では副教材と呼ぶ。単元を通して学習課題を設定するため、身に付けさせたい文章構造の特徴を主教材と同じように含み、話題も主教材と共通なものを設定すると効果的である。主教材で、「マイシート1」→「マイシート2」→「マイシート3」、副教材で、「マイシート2」→「マイシート3」を使用する。主教材を通して文章構造の特徴を理解し、それを利用して自分の考えを明確に表現する学習過程を体験した児童が、副教材によって文章構造の特徴についての理解と表現への活用をもう一度繰り返す。この学びの過程を児童に一般化させる効果を期待する。



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対 象	研究協力校 小学校第5学年 22名
実践期間	平成27年10月13日～10月27日 9時間
単 元 名	「根拠を持って、自分の考えを伝えよう」 －文章構造の特徴を生かし、筆者の主張と根拠を確かめながら読んだり、自分の考えを書いたりする－ 教材名 「オーディエンス」「メディア・リテラシー入門」
単元の目標	文章構造の特徴を基に、筆者の主張と事例の関わり方を確かめながら読んだり、根拠を持って自分の考えを書いたりすることができる。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1 文章構造の特徴を捉えて表現に試行させる「マイシート1」	主教材を読む学習活動において、「マイシート1」を用いて文章構造の特徴の一つである文章構成の特徴をまとめさせ、すぐに筆者と同じ文章構成を用いて文章を書く試行をさせたことは、児童が、説明的な文章の文章構成の特徴を理解し、それを用いて自分の考えを表現する方法を身に付けるのに有効であったか。	・マイシート1への記述内容 振 返 り の 記 述 内 容
見通し2 身に付けさせたい文章構造の特徴とその効果を理解	主教材及び副教材の内容を読む学習活動において、「マイシート2」を用いて身に付けさせたい文章構造の特徴に気付かせ、その効果について考えさせたことは、児童が自分の考えを明確に表現するために必要な文章構造の特徴を	・マイシート2への記述内容 内 容

させる「マイシート2」	理解したり、それを表現へ活用する意識を持ったりすることに有効であったか。	
見通し3 文章構造の特徴を利用して自分の考えを書かせる「マイシート3」	主教材及び副教材を読んで自分の考えを書く学習活動において、「マイシート3」に「マイシート1・2」で読み取った文章構造の特徴を記述させたことは、児童がそれを意識したり、目的を持って利用したりしながら自分の考えを明確に書くことに有効であったか。	・マイシート3への記述内容 ・授業前と後の意見文の比較 ・意識の比較

3 抽出児童

A	<p>国語の学習に苦手意識を持ち、レディネステストでは、筆者の主張を見付けたり、自分の考えを持ったりできなかった。文章構成や文末表現など認識している文章構造は少なかった。</p> <p>「マイシート1」では、文章構成についての理解と表現への活用を丁寧に指導する。また、「マイシート3」では、使わせたい文章構造の特徴を記述させて表現に利用する意識を持たせたり、書いた後は自他で確認させたりして、自分の考えが明確に表現できるようにさせる。</p>
B	<p>学力検査での国語の得点率が高いが、相対的に説明的な文章の読みの能力が低い。レディネステストで書いた意見文は、文章は短く、文章構造の特徴の利用は少なかった。</p> <p>「マイシート1・2」により、説明的な文章の文章構造の特徴の理解とその利用により主張が分かりやすく伝わることを理解させる。また、「マイシート3」に使わせたい文章構造の特徴を記述して可視化させることで、自分が書いた意見文にそれが利用できているか常に確認させながらより明確に自分の考えが表現できるようにさせる。</p>

4 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
情報との関わり方についての自分の意見を伝えるために、説明的な文章を筆者の主張と事例との関わり方に着目しながら読んだり、根拠を持って自分の考えを書いたりしようとしている。	主張の伝わりやすい文章にするために、尾括型の文章構成や根拠、冒頭の問いかけの文章などの表現の効果を理解し、自分の考えを伝える文章に用いている。	筆者の主張に対する自分の意見を持つために、文章構成を捉えて筆者の主張を読み取りたり、主張と事例との関わり方を確かめながら読んだりしている。	尾括型の文章構成や根拠、問いかけ文などの文章表現の効果を理解し、読んだり書いたりする際に用いている。

5 指導計画（全9時間予定）

時	<input type="checkbox"/> 本時のめあて <input type="checkbox"/> 主な学習活動 ★ 研究上の手立て <input type="checkbox"/> 評価項目 () 評価の方法	教材		評価の観点				マイシートの利用
		主	副	関	書	読	言	
1	<p>学習課題—情報との関わり方について自分の意見を発表しよう</p> <p>学習課題から学習計画を立てる。</p> <p>○情報との関わり方について日常生活での経験を思い出し、学習課題「情報との関わり方について自分の意見を発表しよう」をつかむ。</p> <p>○自分の意見を伝えるために身に付けたい必要な力を知る。</p> <p>○学習計画表を使って、学習の見通しを持つ。</p> <p>○主教材「オーディエンス」の範読を聞く。</p> <p>【関】学習課題の解決に向けて、意見を伝えるために身に付けたい力を書いている。(学習計画表)</p>	◇		○				

時	<input type="checkbox"/> 本時のめあて ○ 主な学習活動 ★ 研究上の手立て <input type="checkbox"/> 評価項目 () 評価の方法	教材		評価の観点			マイシートの利用	
		主	副	関	書	読		言
2	意見文の文章構成が分かる。 ○主教材の文章構成を調べ、同じ文章構成で文章を書く。 ★「オーディエンス」の文章構成を調べ、意味段落に小見出しを付ける。 ★尾括型の文章構成の特徴を理解する。 ★尾括型の文章構成を使って、身近な話題で意見文を書く。 【書】尾括型の文章構成で意見文を書いている。 【読】尾括型の文章構成を理解している。 (マイシート1・学習計画表)	◇			○	○		マイシート1
3	事例の工夫が分かる。 ○主教材の事例の述べ方の工夫を理解する。 ★事例の要点をまとめ、根拠が述べられていることを知る。 ★事実を基にした根拠を述べる効果について考える。 【書・読】事実に基づく根拠を述べる効果を主張と関わらせて理解している。 (マイシート2・学習計画表)	◇			○	○		マイシート2
4	コマーシャルについて根拠を持って自分の考えを書く。 ○主教材の筆者の主張に対する自分の考えを意見文に書く。 ★要旨から自分の考えを持つ。 ★尾括型の文章構成と根拠を述べることを意識して自分の考えを書く。 【書】尾括型の文章で、意見とその根拠となる事実を書いている。 【読】コマーシャルについて、自分の意見を持っている。 【言】尾括型の文章構成や根拠、問いかけの文章などの文章表現を用いて書いている。 (マイシート3)	◇			○	○	○	マイシート3
5	事例の工夫が分かる。 ○副教材「メディア・リテラシー入門」の主張と根拠の関わりを理解する。 ★事例の要点をまとめ、根拠が述べられていることを確認する。 ★共通している事実を基にした根拠を述べる効果を考える。 【書・読】共通している事実に基づく根拠を述べる効果を、主張と関わらせて理解している。(マイシート2・学習計画表)	◇			○	○		マイシート2
6	情報との関わり方について自分の考えを持つ。 ○副教材の筆者の主張に対する自分の考えを意見文に書く。 ★要旨から自分の考えを持つ。 ★尾括型の文章構成と根拠を述べることを意識して自分の考えを書く。 【読】情報との関わり方について、根拠を基に自分の意見を持っている。 (マイシート3)	◇				○		マイシート3
7	意見文を見直して、分かりやすい意見文にする。 ○友達と意見文を交換して読み合い、文章構成と文章表現を確認し合う。 ★尾括型の文章構成と文章構造(根拠など)を意識して自分の考えを書く。 【書】尾括型の文章で、意見とその根拠となる事実を書いている。 【読】根拠を基に自分の意見を持っている。 【言】尾括型の文章構成や根拠、問いかけの文章などの文章表現を用いて書いている。 (マイシート3)	◇			○	○	○	マイシート3
8	助言を基に修正し、分かりやすい意見文にする。 ○友達からの助言を基に意見文を修正する。 ★尾括型の文章構成と文章表現を再度確認し、意見文を清書する。 【書】尾括型の文章で、意見とその根拠となる事実を書いている。 【読】根拠を基に自分の意見を持っている。 【言】尾括型の文章構成や根拠、問いかけの文章などの文章表現を用いて書いている。 (マイシート3・清書用紙)	◇			○	○	○	マイシート3
9	意見文の発表を聞いて、意見を分かりやすく伝えるのに必要な力が分かる。 ○グループで意見文の発表を行う。 ★友達の発表を聞いて、文章構成や文章表現の工夫ができているか評価する。 【書】分かりやすい意見文を書くために必要な力を理解している。 (評価シート・学習計画表)	◇			○			
家庭	○家人に意見文を発表し、感想をもらう。							

VI 研究の結果と考察

1 文章構造の特徴を捉えて表現に試行させる「マイシート1」

(1) 児童全体の様子

① 結果

まず、教材文の文章構成をつかむため、「小見出し」の枠に大まかに読み取った内容を書いた。それを用いて筆者の主張が「終わり」の段落で述べられていることを捉えた。そして、文章構成の型と照らし合わせ、尾括型の文章構成であることを理解した。筆者は自分の意見を尾括型を利用して書いていることを確認してまとめ、シートの「文章構成の特徴」の枠に記述した。

次に、教材文と同じ尾括型の文章構成で意見文を書いた。話題に対する自分の意見を「終わり」の段落で述べられるよう、教材文の「文章構成」の枠の記述内容を参考にしながら書いた。おおむね、話題提示→事例→主張の順で自力で文章を記述したが、数名は話題提示を書いた段階で活動を止めた。支援としてシートの「事例」と「主張」の枠を示し、いずれから取り組んでもよいと助言したところ、主張→事例の順で記述した。全体として約95%の児童が尾括型で意見文を書いた。

振り返りで尾括型の文章構成の特徴について確認したところ、ほぼ全員が「終わりに筆者の主張がある」や「始めに話題提示、中に事例、終わりに筆者の主張が書かれている」と記述していた。

② 考察

文章構成の枠を使って内容を大まかに捉えさせたことで、文章全体の内容を概観させ、主張の位置、すなわち文章構成の型に気付かせることができたと言える。書くことにおいては、教材文の文章構成の枠と意見文を書く枠を同一シート上に同様の形式で配置したことで、読み取った教材文の文章構成の内容を参考にしながら取り組んだと言える。また、話題に対して主張を先に書き、後から事例を書くという思考の流れを持つ児童にも、「マイシート1」は有効であったと考える。

(2) 抽出児童の様子

① 結果

尾括型の意見文を書く活動では、抽出児童A・B共に自力で尾括型の意見文を書くことができた(図4)。抽出児童Aは話題提示の文の文末表現が途切れてはいたが、シートの「文章構成」の枠に記述した「話題提示・事例・主張」それぞれの内容のまとまりを参考にしながら意見文を書いていた。短文ではあったが、一人で意見文を書けたことに満足する様子が見られた。

振り返りでは、尾括型の文章構成の特徴として、抽出児童Aは「尾括型は、始め・中・終わりの終わりに筆者の主張がある」、抽出児童Bは「尾括型は、話題提示・事例・主張という順。主張が最後だと分かった」と記述した。

② 考察

「マイシート1」が持つ二つの働きにより、結果として文章構成の整った文章を書くことができたと思われる。一つ目は、説明的な文章には文章構成の型があるという理解とすぐにそれを利用して書く活動が、読みで得た知識を表現で活用するという思考を児童に作り出したことである。二つ目は、教材文の文章構成の枠と意見文を書く枠が同形式で並んでいるため、自ら読み取ったものが直近で参考例となることである。特に、抽出児童Bは、「マイシート1」の使い方を理解した後は主

体的に文章構成の枠を利用して自分の考えを尾括型で表現することができていた。主張を述べる段落の位置付けだけでなく他の段落に書く内容についても併せて理解できたため、表現活動がスムーズだったと言える。

抽出児童Aの意見文 「シャープペンシルの利用について」 みなさんは、シャープペンシルは便利だから使いたいと思ったことはいくらもありませんか。実は、私は、母に借りたいゲームを借りた事があります。おもしろいゲームを借りて楽しめませんが、気を付けて使わないと個人情報や大金などという危害にあってしまいます。 使いたい電話は便利ですが、気を付けて使わないととても危険だと思います。	抽出児童Bの意見文 「けいけい電話の利用について」 みなさんは、けいけい電話は便利だから使いたいと思ったことはいくらもありませんか。実は、私は、母に借りたいゲームを借りた事があります。おもしろいゲームを借りて楽しめませんが、気を付けて使わないと個人情報や大金などという危害にあってしまいます。 使いたい電話は便利ですが、気を付けて使わないととても危険だと思います。
---	---

図4 抽出児童A・Bの意見文

2 身に付けさせたい文章構造の特徴とその効果を理解させる「マイシート2」

(1) 児童全体の様子

① 結果

根拠について理解し、根拠を述べる効果について考えた。まず、図5のAの枠に筆者の主張を読み取って記述した。次に、Bの枠に事例の内容を大まかに読み取って記述した。その内容は筆者の生活経験や知識から述べられている事実であり、それを根拠としていることを理解した。教材文によって複数の根拠を事例として取り上げることがも理解した。その後、Cの枠を使い主張と根拠を関連付けて

<p>筆者の主張 オーティエンスとは、伝える人を個人としてとらえるだけでなく、社会を構成している、さまざまな希望や関心を持つ人々の集団としてとらえることにも役立つ考え方のことだ。</p>		<p>学習のめあて 事例の工夫が分かる。</p>
<p>終わりの主張</p>	<p>中</p>	<p>始め 話題提示</p>
<p>主張</p>	<p>事例</p>	<p>番組とコーナー</p>
<p>オーティエンスには、個人と集団とがある。</p>	<p>⑤ 集団としてのオーティエンス 研究 ファンのサイト つながりたり 連帯感 一体感</p> <p>④ C/Dジャケットさっしラジオ番組 関心 伝え方の工夫</p> <p>③ 「個人」としてのオーティエンス コーネルと番組分析 何と性別 時間帯</p>	<p>「オーティエンス」を読んで、筆者の主張と事例の工夫を見つけよう。</p>
<p>根拠より事実をもちに説明している。 事柄は本筋にあてはまること 実際起きたこと 主張に納得しやすくなる。 主張に説得力が増す。</p>	<p>C</p>	<p>B</p>

図5 主教材での「マイシート2」

考え、「(根拠を述べると)主張に納得してもらえ。主張に説得力が増す」と記述した。

振り返りで分かったこととして、「自分の意見を書く時にも読み手に納得してもらえように根拠として事実を書くことが大切だ」「事例の工夫で分かったことは、根拠には共通して言えることを書いて主張に説得力を持たせる」などと書いていた。

② 考察

まず、事例の大まかな内容を記述して可視化させたことで、児童は根拠というものが文章構成の「中」の段落で事例として述べられていること、筆者が生活経験などの事実を基にして述べていることに気付いたと言える。主張、根拠、両者との関わりを理解しまとめたことで、児童は自らの考えを表現する際には、これらを明確に持って書き分けることの大切さを理解したと言える。また、単元で使用した副教材においても「マイシート2」を用いた。このことにより、根拠の述べ方がより複雑になった文章でも、主教材での学びを適用して理解と表現に生かそうとする姿が見られた。より明確な表現にするために根拠を書く時の一つの方法として理解が深まったと言える。

(2) 抽出児童の様子

① 結果

抽出児童A・B共に事例の内容を図5のBの枠に記述し、根拠というものが、「中」の段落で事例として述べられていることや、筆者の生活体験などの事実に基づいて説明されているといった特徴を理解した。根拠を述べる効果について考える活動では、両者とも目立った発言はなかったが、板書された効果についての記述をCの枠に写した。

抽出児童Aは振り返りで、「根拠を書いて主張に納得してもらえようにする」「主張に納得してもらうために共通して言えることを書いていた」と記述した。抽出児童Bは、「根拠を書くことで筆者の主張に納得してもらおう」「主張に説得力を持たせるために根拠では共通していることを書いた」と記述した。

② 考察

「マイシート2」において、事例の内容の読み取りとそれを根拠として述べる効果に絞って学習したことが、抽出児童A・Bの理解を促したと言える。これらをシート上に記述し、筆者の記述内容と表現上の工夫とを併せて視覚的に捉えることは有効であると言える。しかし、根拠を述べる効果について考える際の様子や振り返りの記述内容から、自分の考えを表現する際に読み取った文章構造の特徴を積極的に利用する意識は薄いように思われた。図5のCの枠に記述した文章構造の特徴とその効果は、筆者が用いたものという認識ではなく、自らが書く文章で利用するという意識を持たせる必要がある。「マイシート3」の利用時に、Cの枠に書かれた内容を振り返り、「マイシート3」に再度記述させ、利用への意識付けを行う必要があることが分かった。

(2) 抽出児童の様子

① 結果

抽出児童A・B共に、「マイシート1・2」で学んだ文章構造の特徴を振り返った後、「マイシート3」の「文章構成の工夫」と「文章表現の工夫」の枠に、意見文で使いたい文章構造の特徴として自分で記入した。図7・8は抽出児童A・Bが主・副教材の「マイシート3」に書いた意見文の様子である。網掛け(■)の表記が自分で修正した箇所、四角(□)で囲った表記が他者

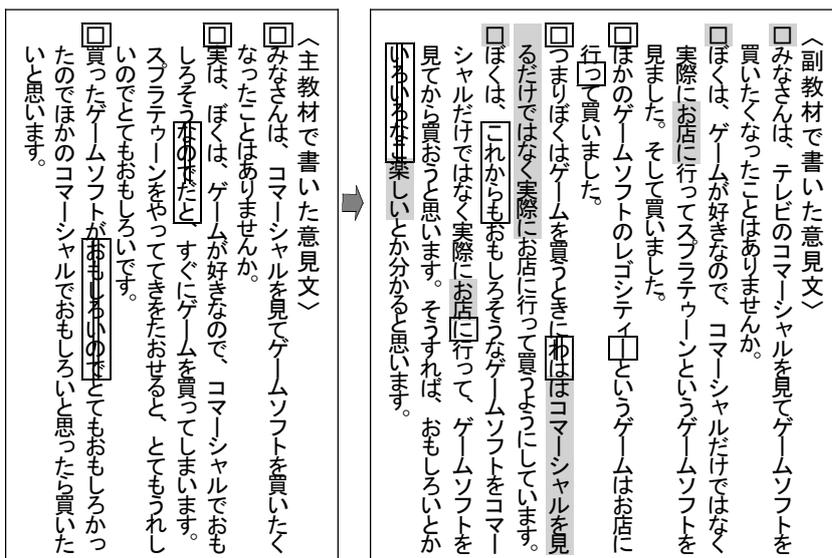


図7 児童Aが主・副教材で書いた意見文

からの助言箇所である。二人とも尾括型の文章構成で、根拠となる事実を挙げて意見文を書いた。副教材での意見文では、主教材の意見文よりも根拠として挙げる事実の数が増え、詳しい説明になっていた。抽出児童Aは「つまり」を使う文章を書く段階で活動が止まった。二つの事実に通して言えることは何か教師から問われると、事例の文章を読み返し、「お店に行く」ことであると自ら気づき追記した。抽出児童Bは、根拠となる事実を自分の生活体験から複数挙げ、詳しく思い出

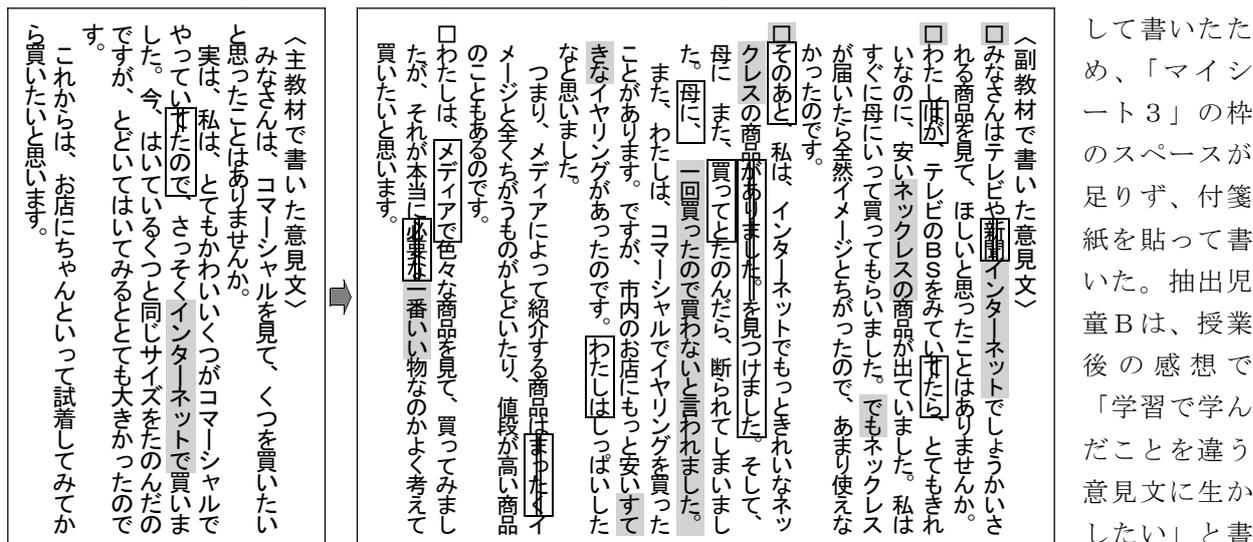


図8 児童Bが主・副教材で書いた意見文

② 考察

抽出児童A・B共に、自他による修正前の文章を見るとどちらの意見文も尾括型の文章構成であり、根拠も述べられている。これは、両者が「マイシート3」に記述した文章構造の特徴を意識して書いていたと言うことである。つまり、文章構造の特徴の記述が表現活動に作用していたと考えられる。また、主教材では一つしか挙げていない事例が、副教材では二つ以上挙げた文章となっている。「マイシート2」「マイシート3」の連続した学習活動を繰り返すことにより、意見を支える根拠の述べ方についての知識が豊かになり、意見と根拠のつながりのよさが生まれたと考える。

さらに、抽出児童Bは、「マイシート3」に記述した使いたい文章構造の特徴を常に確認しながら文章を書いていたので、受ける助言は言葉の付け足し程度であった。一方、他者の意見文を読んで助言する活動には積極的に取り組み、文章構造の特徴を生かして具体的な助言を複数書いていた。文章構造の特徴を視点として、教材文から読み取った筆者の主張と同様に、自らの考えが明確に表現できたかを自省しながら書くことに「マイシート3」は効果があったと考えられる。

4 単元を通して『マイシート』を使用した児童の変容

(1) 文章構造の特徴の利用の変容

授業実践前に書いた意見文と副教材の「マイシート3」に書いた意見文の文章構造の特徴の利用の様子について比較した(表3)。項目に示した文章構造の特徴を利用した児童数を全体に対する割合で示している。説明

表3 授業実践前後での文章構造の特徴の利用の様子

文章構造の特徴	授業実践前	副教材の「マイシート3」
文章構成の意識を持っている	24%	100%
段落分けの改行を行っている	19%	91%
意見を表す文末表現を利用している	48%	95%
根拠を述べている	38%	100%
意見と根拠のつながりが良い	10%	86%

的な文章を読んで自分の考えをどのように表現したら良いか分からなかった児童が、『マイシート』を用いた学習により、文章構造の特徴を意識して利用できるようになったことが分かる。『マイシート』を用いて理解した文章構造の特徴をすぐに表現で活用する学びの繰り返しにより、自分の考えを明確に表現する力を高めたと考える。

(2) 説明的な文章の学習に対する意識の変容

授業実践前と後での説明的な文章の学習に対する意識の変容を、五つの項目を挙げ調査した。回答は図9の通りである。項目に示した文章構造の特徴が分かると答えた児童数を全体に対する割合で示している。この結果から、説明的な文章の学習は文章の内容を理解するものという捉えから、文章の内容と共に筆者の意見や考えが分かる学習、自分の考えが分かる学習であるという認識に変容していることが見取れる。これは、第5・6学年の「読むこと」の領域の説明的な文章の解釈に関する指導事項に合致するところである。『マイシート』の利用により、「書くこと」と「読むこと」の領域の指導事項を関連付けた学びの過程がもたらした効果であると考えられる。

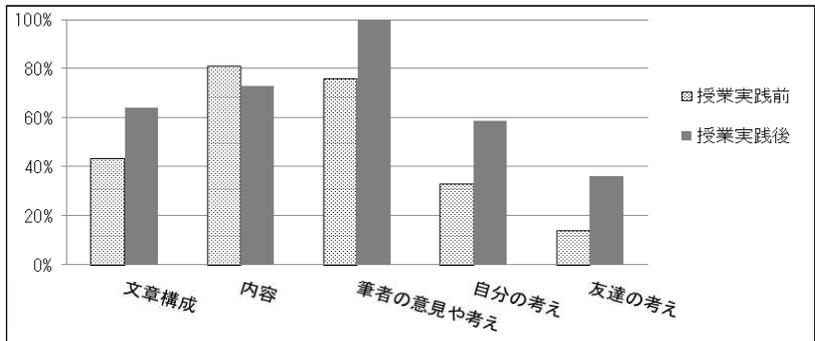


図9 説明文の学習をして分かることは何か(複数回答可)

また、授業実践後に児童に『マイシート』を用いた学習への感想を書かせた。「根拠という言葉が出てきて、勉強しているうちにいつの間にか使いこなしていた」「最初は意見文が苦手だったが、話題提示や事実などが分かり、意見文が書けて良かった」「4年生まで自分の考えを書く時は事例がばらばらで分かりづらい文章になってしまいがちだった。話題提示・事実(根拠)・筆者の主張が分かり、これからは自信を持って文章を書けそうだ」「文章構成、根拠(事実)や話題提示などということが説明文には必要なのだとよく分かった。今回の学習で学んだことを違う説明文にも生かしたい」などの記述があった。『マイシート』を用いた学習は、文章構造の特徴の理解と表現への活用の流れが滑らかに行われ、自分の考えを明確に表現する力を伸ばさせたと言える。また、『マイシート』を主・副教材で繰り返し利用したことで、授業で扱われる教材文以外の説明的な文章からも文章構造の特徴を読み取り、自らの表現に適用できるという知識と技能をもたらした。これは、児童に新たな学びの過程に気付かせることができたと言える。児童の主体的な学びの過程として一般化につながると考える。

VII 研究のまとめ

1 成果

- 『マイシート』に一貫して共通する文章構成の枠を用いたことにより、児童は常に文章全体を概観し、文章構成の型を始めとする文章構造の特徴を利用しながら説明的な文章の内容を読んだり、自分の考えを表現したりできた。また、『マイシート』に身に付けたい文章構造の特徴を自

ら繰り返し記述したことで、それを利用して自分の考えを表現する意識を高め、適切に利用できたか評価しながら明確に表現する力を高めていくことができた。

- 『マイシート』を学習過程に沿って連続して利用したり、単元で繰り返し利用したことで、理解した文章構造の特徴を自らの表現活動でも活用するという思考の連続性を生み出すことができた。これにより、説明的な文章を用いて学ぶ新たな学習過程を身に付け、他の説明的な文章を読む際にも適用できるものとして認識することができた。

2 課題

- 『マイシート』は、「読むこと」と「書くこと」のどちらの領域の指導においても、文章全体を概観できる文章構成の枠を利用し、多くの文章構造の特徴の理解と表現への活用に対応できるよう作成してある。そのため、『マイシート』には簡易な文章構成の枠を用いている。『マイシート』を利用する際には、指導者は、児童の発達段階に応じて身に付けさせたい文章構造の特徴を系統的・計画的に設定したり、シートの利用の過程について理解したりしてから指導する必要がある。

Ⅷ より良い実践に向けて

1 『マイシート』を用いた学びの繰り返し

『マイシート』を使って多くの説明的な文章に触れさせることで、児童は新たな文章構造の特徴に気付いたり、同じ文章構造の特徴でもより深く理解したりすると考える。そのことにより、児童が自分の考えを表現する際に利用できる文章構造の特徴の幅が広がり、奥行きも生まれて表現がより充実してくると言える。文章構造の特徴を生かして自分の考えを明確に表現する力を高めるためには『マイシート』を用いた学びを児童が繰り返していくことが肝要であると考ええる。

2 国語科の他領域の指導事項を関連させた指導への広がり

本研究では、説明的な文章を対象として「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項を文章構造という軸で関連付け、『マイシート』が両者をつなぐ役割を果たしていた。高学年の国語科では「話すこと・聞くこと」の領域の指導事項においても、話したり聞いたりする際に話の構成や内容を的確にする指導を行っている。『マイシート』は音声言語による表現においても明確に自分の考えを述べる時の発表原稿となるものである。国語科の三つの領域で指導すべきことを関連付けることで児童が自分の考えを明確に表現する力を伸ばしていけるものと考ええる。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（2008）
- ・国立教育政策研究所 教育課程研究センター
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【小学校 国語】教育出版（2013）
- ・中原 國明・大熊 徹 編 『国語科授業用語の手引き 第二版』教育出版（2009）
- ・水戸部 修治 編集 『「単元を貫く言語活動」授業づくり徹底解説&実践事例24』
明治図書（2013）

<担当指導主事>

委文 弥生 佐藤 淳